

紀伊山系直轄砂防事業の 対応状況について

国土交通省 近畿地方整備局
紀伊山系砂防事務所

紀伊山系直轄砂防事業 H29年度事業実施箇所

■紀伊山系直轄砂防事業について

平成23年紀伊半島大水害で発生した河道閉塞(天然ダム)等の大規模土砂災害に対し、平成24年度より特定緊急砂防事業を実施し、基幹となる砂防堰堤の整備等により被災箇所の安全度の確保を図ってきたところです。

一方、紀伊半島大水害以降、流域全体では山腹等の荒廃が進み、崩壊斜面等から大量の土砂が流出し、河川に流入した土砂により河床が上昇することにより、洪水氾濫の恐れが高まるなど、未だに危険な状態が続いています。加えて、大規模土砂災害対策箇所では崩壊斜面部等で引き続き対策が必要な状態です。

このため、平成29年度より国による「紀伊山系直轄砂防事業」として新たに着手することとなりました。

全体の事業計画としては、今後、流域の荒廃状況等を把握した上で、優先順位の検討を含めた計画的な事業展開を行います。当面、特定緊急砂防事業箇所では、流路工等の残工事、溪流からの土砂流出が著しく認められる神野川流域(奈良県)及び高田川流域(和歌山県)での調査・検討を予定しています。



清水山腹工



北股川溪流保全工



川原樋川床固工群



神納川砂防堰堤群



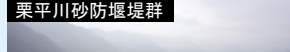
三越川砂防堰堤群



冷水山腹工



長殿谷砂防堰堤群



栗平川砂防堰堤群



高田川砂防堰堤群

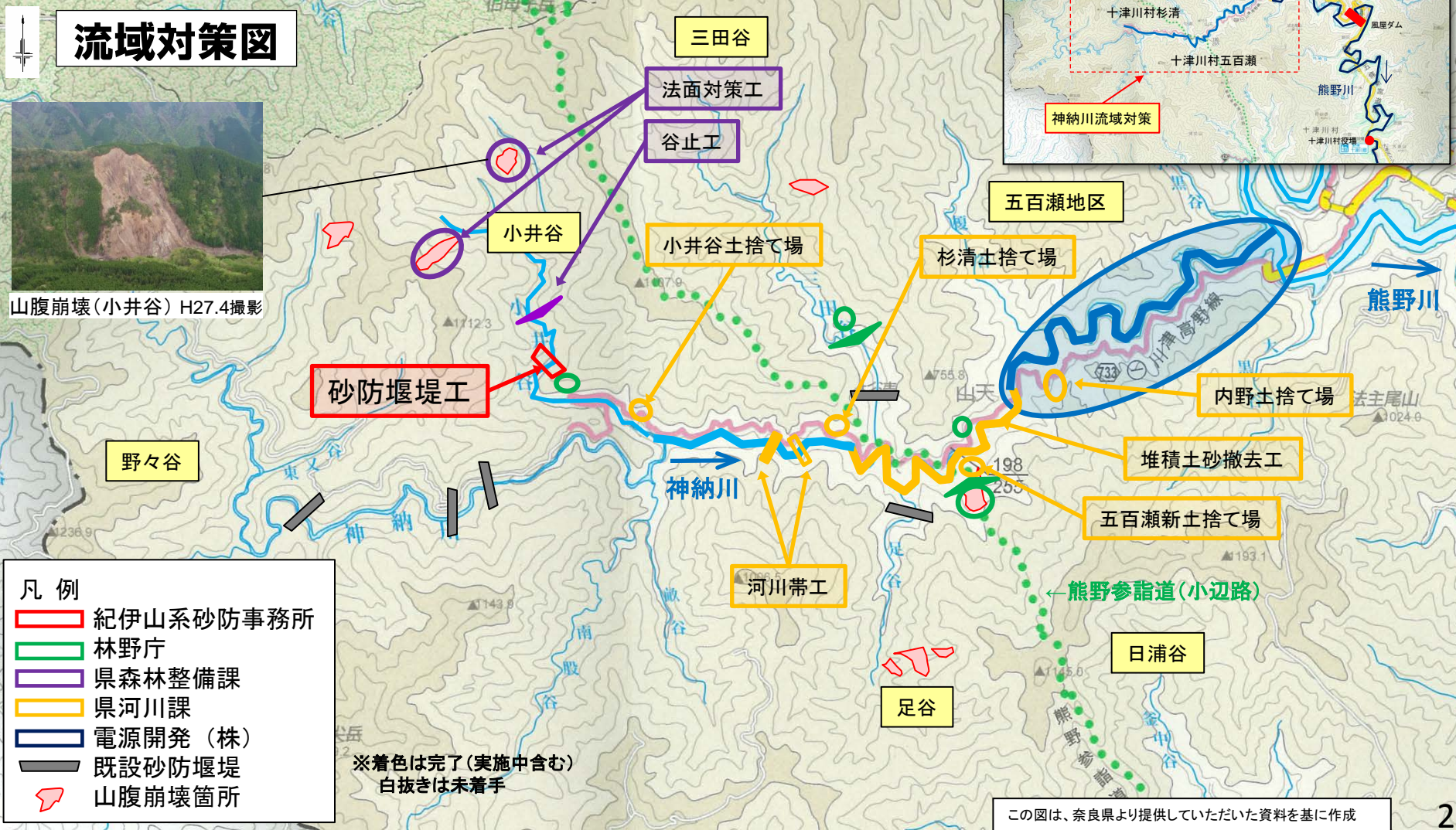


那智川砂防堰堤群

【凡例】
 新規事業の対象流域：熊野川流域、日置川流域、那智川流域
 ●：対策箇所
 青字箇所：調査設計着手箇所

神納川流域における当面の直轄砂防事業の予定

- 進捗状況
- ① 奈良県が実施していた砂防堰堤の詳細設計が6月に完了。7月に設計成果を引継ぎ、平成29年度中に地元説明を行い工事用道路に着手する予定であり、現在土地所有者等の関係者と調整中。
 - ② 流域内で土砂流出が著しく、優先度の高い区間で砂防事業実施に向けた調査・検討を行っている。
 - ③ 事業の実施にあたっては、林野庁や奈良県が事業を実施しており、調整を図りつつ進める。



川原樋川床固工群の対応状況

■整備目標

- ①河道閉塞部末端部に対策の基幹となる砂防堰堤を整備し、河道閉塞土砂の侵食防止を図る。
- ②砂防堰堤・床固工を整備し、河道堆積土砂の二次移動防止を図る。また、排水路等を整備し、洪水流を安全に流下させる。

■現状

- ①河道閉塞土砂の侵食防止を図るための基幹となる砂防堰堤が完成。
- ②河道内堆積土砂の二次移動防止のための砂防堰堤・床固工が完成。

→河道閉塞土砂の侵食防止を図る基幹となる砂防堰堤及び堆積土砂の二次移動防止のための砂防堰堤が完成したことで、一定の安全度が確保されている。平成29年度は洪水流を安全に流下させるための溪流保全工を実施し、引き続き安全度の向上に努めていく。



※現時点での計画であり、今後変更の可能性がある

長殿谷砂防堰堤群の対応状況

■整備目標

- ①河道閉塞部末端部に対策の基幹となる砂防堰堤を整備し、河道閉塞土砂の侵食防止を図る。
- ②排水路等を整備し、洪水流を安全に流下させる。また、不安定土塊を除去し、斜面の拡大崩壊を抑制する。

■現状

- ①河道閉塞土砂の侵食防止を図るための基幹となる砂防堰堤が完成。
 - ②洪水流の安全な流下のための仮排水路が完成。また、崩壊斜面の拡大崩壊を防ぐため、不安定土塊の排土を施工中。
- 河道閉塞土砂の侵食防止を図る基幹となる砂防堰堤及び、洪水流を安全に流下させるための仮排水路が完成しており、一定の安全度が確保されている。平成29年度からは堆積土砂を撤去するための推進工に着手し、引き続き安全度の向上に努めていく。

※現時点での計画であり、今後変更の可能性がある



栗平川砂防堰堤群の対応状況

■整備目標

- ①河道閉塞部末端部に土砂流出を防ぐための砂防堰堤を整備し、河道閉塞土砂の侵食防止を図る。
- ②水路等を整備し、河道堆積土砂の二次移動防止及び洪水流を安全に流下させる。

■現状

- ①土砂流出を防ぐための砂防堰堤が完成。
- ②河道内堆積土砂の二次移動防止及び洪水流を安全に流下させるための崩壊地下流の排土工が約24万m³まで完了。
→土砂流出を防ぐための砂防堰堤が完成したことから、一定の安全度が確保されている。



①水路工



②砂防堰堤工



③管理用道路 施工状況



※現時点での計画であり、今後変更の可能性がある

北股川溪流保全工の対応状況

■整備目標

- ①河道閉塞末端部の安定化を図るための砂防堰堤を整備し、河道閉塞土砂の侵食防止を図る。
- ②砂防堰堤・床固工を整備し、河道堆積土砂の二次移動防止を図る。また、溪流保全工等を整備し、洪水流を安全に流下させる。

■現状

- ①河道閉塞土砂の末端部の安定化を図る砂防堰堤本体が完成。
- ②河道内堆積土砂の二次移動防止のための砂防堰堤工及び洪水流の安全な流下のための溪流保全工が完成。

→宅地に近い最下流の砂防堰堤が完成し、さらに河道閉塞土砂の末端部の安定化を図る砂防堰堤本体が完成したことから、一定の安全度が確保されている。平成29年度は河道閉塞土砂末端部の砂防堰堤本体を保護するための前庭保護工および斜面部の排土工を実施し、引き続き安全度の向上に努めていく。

①砂防堰堤工



②溪流保全工・砂防堰堤工



③法面工 施工状況



※現時点での計画であり、今後変更の可能性がある

H29.6.14撮影

清水山腹工の対応状況

■整備目標

- ①護岸工を整備し、崩壊土砂脚部の洗掘防止を図る。
- ②斜面抑止工を整備し、崩壊斜面上部の安定化を図る。

■現状

- ①崩壊土砂脚部の洗掘防止のための護岸工を施工中。
- ②崩壊斜面上部の安定化を図るための斜面抑止工が完成。

→崩壊斜面上部の安定化を図るための斜面抑止工が完成していることから、一定の安全度が確保されている。平成29年度は、法面保護工および表面排水路工を実施し、引き続き安全度の向上に努めていく。



三越川砂防堰堤群の対応状況

■整備目標

- ①護岸工を整備し、崩壊土砂脚部の洗掘防止を図る。
- ②砂防堰堤・床固工を整備し、河道堆積土砂の二次移動防止を図る。また、排土を行い、洪水流を安全に流下させる。

■現状

- ①崩壊土砂脚部の洗掘防止のための護岸工が完成。
 - ②河道堆積土砂の二次移動防止のための砂防堰堤・床固工及び洪水流を安全に流下させるための排土工を実施済み。
- 平成29年度に全体の対策が完了し、一定の安全度が確保される。

①護岸工



②表面排水路工 施工状況

